

テラビットルータに向けた高速信号処理用光モジュールの開発（日本電気株式会社）平成15年度中間評価結果

整理番号	評価	所見	再評価	再所見
14 - 04	A	<p>目標設定が適切になされており、それを実現するための個々の要素技術のレベルも着実に進展している。性能的に他社製品を大きく先行しているところもあり、今後の発展が期待できる。また、光源デバイスは、光リンク等への応用も期待され、技術的な裾も広いと考えられる。ベースとなる光I/O用の光デバイス・モジュールについては、学会発表・特許出願が積極的に行われている。それ以外にも、他社との競合が見込まれるような光コネクタ部や信頼性評価方法については、特許だけでなく標準化に向けた努力も行われている。</p> <p>事業化関係については、当該受託企業が本研究開発領域に類似する技術を製品化した実績を有していること、事業化のプロセスも妥当であることなどから、事業化の確実性は大きい。また、大容量伝送を小型化、低消費電力化、低コスト化で実現するための基本技術であり、この研究開発成果の優位性による製品の魅力度は大きい。収益が確保できるタイミングは遅いが、技術の基盤性が高いことを考慮すると、長期的な収益が見込めることが想定できる。</p>		